
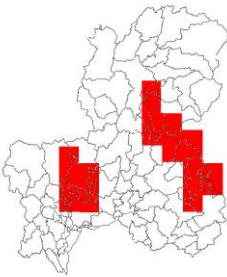


ニシノヤマタイミンガサ	<i>Parasenecio yatabei</i> (Matsum. et Koidz.) H.Koyama var. <i>occidentalis</i> (F. Maek. ex Kitam.) H.Koyama	準絶滅危惧
		キク科
選定理由	生育地は元来少なかったが、近年は更に減少しており、個体数も減少している。	写真(岐阜大学教育学部標本室)
形態の特徴	茎は高さ60-100cm。長い地下茎があり、先端に新しい株をつくる。葉は(2-)3枚、葉柄があり、下部の葉では長さ20cmほどになり、葉身は全体が円形で幅25-30cm、掌状に深裂する。茎の上部に円錐状に頭花をつける。頭花は小型で3-4個の白色の筒状花からなる。総苞片は3-4個。	
生態的特徴	冷温帯の落葉広葉樹林下に生育する多年草。花期は7-9月。	
分布状況	日本に固有で、中部地方以西の本州から九州に分布する。岐阜県では岐阜県では県北の南部と県南に見られる。	
減少要因	開発による生育地の破壊。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項	ヤマタイミンガサの変種で、頭花における小花数が少ない。	
参考文献		

文責: 高橋弘